

リーディングDXスクール事業【実践事例】

敦賀市立中郷小学校（福井県）

【取組内容⑤】 「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

DXが目指すものは、授業改革だけでなく校務における変革である。本校では、校務のDX化のために下記のように取り組んだ。

A.共有ドライブで、職員会議資料の共有

本校では、昨年度から職員会議でのペーパーレス化に踏み切っている。個人の情報に係わることや重要な案件などを除き、資料を共有ドライブにアップロードしている。共有ドライブにアップロードすることによって、参加者は職員会議以前に内容を確認することができ会議時間を短縮することができる。また、提案者は資料印刷の時間を短縮することができ、作業を簡略化することができる。

職員会議後も、資料は共有ドライブ内にあるので、タブレットとネットワーク環境さえあれば、どこでも確認することができるため、非常に便利である。

← ⑩冬季休業・1月に向けての職員会議



↑本校の共有ドライブ内の職員会議フォルダ

B.チャット機能で、職員間の連絡、情報共有

これまでの職員間の連絡は、校内放送によるものや校内電話、または職員会議や朝礼・終礼などによる直接のやり取りに限られていた。しかしながら、チャット機能を使うと、瞬時に連絡・共有をすることができる。

本校では、今年度クマの出没や大雪による下校の確認など、急遽な変更事項や指示・連絡などがあったが、チャットを使うことにより、情報を共有しやすくなった。

上記の非常時的な使い方だけでなく、落とし物や探し物、委員会の集合場所の変更や児童の欠席に関してなど、様々な状況でチャット機能を使用している。

